シンポジウム　2014年6月28日

グローバル化や経済成長のもとに、少子高齢化、雇用の不安定化、食の安全性の問題、環境問題など、さまざまな社会問題が浮上し、それにともなって人々のくらしも大きく変化してきています。高度経済成長以降、生活協同組合は他の小売業との競争を高めようとしてきましたが、事業面では伸び悩んでいます。しかし、協同組合だからこそ、事業を通して社会問題を解決する可能性があるのではないでしょうか。

第22回総会記念シンポジウムでは、「生協事業のイノベーション」と題しまして、協同組合の新たな可能性を、コープみやざきにおける実践事例から具体的に見ることとしました。まず、的場信樹氏より、生協にとって「イノベーション」とは何であるのか、そしてコープみやざきに着目する意義を述べていただきました。次に、コープみやざきの真方和男氏より、コープみやざきの取り組みについてご紹介いただきました。そのコメントとして、玉置了氏および北川太一氏より学術的視点から意見をいただきました。そして、他生協の事例紹介として、ならコープの森宏之氏、コープおきなわの山本靖郎氏よりご報告いただき、全体での討論が行われました。

各生協によって地域的条件や経営条件など異なることは多いと思いますが、コープみやざきの長年の試行錯誤による成功事例が、他の生協の「イノベーション」にとっても参考になれば幸いです。

（本誌副編集長　青木美紗）

シンポジウム風景

パネルディスカッション